

二〇二四年度

普連土学園中学校 入学試験問題

二〇二四年 二月二日実施

国語

二日午後二科

- 一、問題に答える時間は五十分です。
- 二、問題は、問題一 ～ 問題五 まであります。
- 三、答はすべて、「解答用紙」に記入しなさい。
- 四、「解答用紙」は中に二枚はさんであります。

問題一

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

ニューヨーク時代に、もうひとつ忘れられない大事な経験があります。住んでいるアパートに、2枚の畳を敷いたことです。コロンビア大学はマンハッタンの115丁目、少し北にあがればハーレム（アフリカ系アメリカ人の多く住む地区）という位置にあり、大学の所有する113丁目のアパートに住み始めました。ニューヨークの乾燥した空気の中にしばらく暮らしていると、突然畳が恋しくなったのです。僕が生まれた横浜の家には畳の部屋があって、そこでゴロゴロしながら1日中積み木遊びをしていたのですが、今でも木の模様を見ると畳独特のいぐさの香りがよみがえってくるのです。

当時、ニューヨークではすでに日本食ブームが始まっていて、①日本風の内装のレストランはいくらでもあったので、簡単に畳は手にはいるだろうと考えていました。しかし、どのインテリアショップを探しても、障子や蒲団までは売っているのですが、畳は売っていないのです。理由を聞いてみると、「日本風インテリアが好きなアメリカ人は山ほどいるけれど、畳の上に座れるアメリカ人なんていない」という返事で、納得しました。確かに、畳が敷いてあるジャパニーズレストランはひとつもありませんでした。諦めかけた時に、インテリアデザイナーの友人から、カリフォルニアに住む日本人の大工さんが、日本から運んできた畳を在庫しているという情報はいったのです。しかし、値段を聞くと、学生の身分の僕には、びつくりするような価格でした。2枚までだったらギリギリ手が出る値段でした。2枚あれば、小さな茶室のように使えるかもしれないと思い、大金をはたいたのです。

②2枚買うというのは、今思えばいい決断だったと思います。1畳半の茶室というのも、あることはありますが、2畳だと、お茶をたてる主人用の畳が1枚、客用の畳が1枚用意でき、緊張感のある極限の茶空間ができあがります。茶室の最高傑作と呼ばれる千利休作の国宝、待庵は、まさに2畳という極限の間取りです。

2枚の畳を置いただけで、殺風景なニューヨークの部屋の雰囲気まるで変わりました。その畳の上に正座すると、いよいよ空間が別の物へと変身したのを感じます。ここにアメリカ人の友人を座らせた時の彼らの反応がおもしろかったので、日本から茶道具一式を送ってもらい、お茶会もどきを繰り返し返しました。お茶を一緒に飲みながら、日本文化について、日本文化と西欧文化の本質について、畳2枚の上でいろいろ語り合いました。

明治における日本美術研究のパイオニアで、日本文化の海外への紹介においても、大きな役割をはたした岡倉天心が、得意の英語で書いた『茶の本』も大変役に立ちました。この本は茶の歴史について触れているだけではなく、日本の空間論としても卓抜です。「空 (void)」という概念について触れていて、20世紀以降の日本の空間に関する議論の基礎を作った歴史的な本です。ニューヨークで友人になったアーティストの岡崎乾二郎からは、海外へ旅立つ友人に向けた「君が英語を自由に話せるなら、着物を着た方がいいでしょう」という天心の有名なアドバイスを教わりました。相手の文化や言語をしっかりと理解して初めて、自国の文化を相手に理解させることができるということです。相手（西欧人）の身になって考えることができ、相手のわかる言葉で説明できなければ、こちらがどんなにすばらしいものを持っていても、相手にはまったく伝わらないのです。岡崎も僕も着物は着ませんでした。③僕は畳を敷いたわけです。

20世紀のアメリカを代表する建築家で、旧帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトも『茶の本』から大変な影響を受けたと語っています。「この本を読んで2週間、自分はまったく仕事が見つからなかった。自分がやろうとしていることが、すべて書かれていたからだ」とまで、ライトは天心の本を絶賛しています。

実はニューヨークに来るまで、僕は日本の伝統建築というものに、ほとんど関心を持っていませんでした。日本建築史の授業というのは受けたのですが、じじ臭い過去の遺物にしか思えませんでした。当時、ほとんどの学生は、ほとんど④そのような眼で日本の伝統建築を見ていたと思います。伝統建築の継承を試みて、茶室や料亭を設計している建築家達の作品にはまったく興味を持つことができず、*モダニズムの流れをひく、丹下健三、槇文彦、磯崎新、黒川紀章といった建築家だけが現代の空気を呼吸しているように見えました。和風建築を設計している建築家達は、金持ちの年寄りのための空間を設計する、時代錯誤な建築家だとみなしていました。

a、ニューヨークで畳の上で友人と会話しながら、少しずつ日本の伝統建築に対して興味がわいてきたのです。建築の新しい方向のヒントが日本の伝統建築の中には、いろいろ隠れているような気がしてきたのです。

⑤当時の建築の世界は、大きな転機を迎え、ある意味でみんなが悩んでいました。工業化社会の制服のようなモダニズム建築が限界を迎えているのは明らかでした。モダニズムへの批判として1980年代に登場した*ポストモダニズム建築も、結局は古代ギリシャ、ローマ以来の欧米建築の伝統へ戻るだけの、復古主義にしか見えませんでした。ポストモダニズム風

ビルはどんだん街で増えていきましたが、魅力のない商業主義的なものに感じられました。

そういう先の見えない状況の中で、アメリカの友人達が、日本の伝統建築に想像以上の興味を抱いていることを知って、逆にこちらが励まされました。「意外に、日本ってすごいものを持っているのかもしれない！」日本にずっといたならば、絶対そんなことは思わなかったはずですよ。ニューヨークに来たからこそ、日本のすごさに気付くことができたのです。天心の教えが役に立ったのです。

ニューヨークの先生方や友人から、日本建築や日本文化が、僕らの考えていた以上に、世界に影響を与えていたことも教わりました。[b]日本の江戸時代の浮世絵は、ヨーロッパに19世紀末に起こった「印象派」というアートの新しい運動のきっかけになった話。フィンセント・ヴァン・ゴッホは、歌川広重をはじめとする日本の浮世絵から大きな影響を受けて、広重を自分を導いた3人の「メンター（先生）」の一人だとまで言っています。

またフランク・ロイド・ライトも広重のコレクターであり、先述した『茶の本』を書いた岡倉天心と広重という二人の日本人に出会わなければ、自分の建築は生まれなかったとまで、ライトは言い切っています。ライトが日本建築から学んだ、内部と外部のつながりや、「空 (void)」という概念が、その後、ヨーロッパのモダニズム建築に伝わって、ミース・ファン・デル・ローエの内と外が繋がったガラスの建築を生んだという説も知りました。だとすれば、モダニズム建築のルーツが、日本建築だということになるわけです。日本人が思っている以上に、日本文化は大きな影響を欧米に与えており、日本建築は、建築史全体の中で大きな役割をはたしていたのです。日本を出たことで、^⑥そのことに気付き、大きな自信を得ることができました。

自分の依って立つ場所が初めて見つかったという感覚を味わいました。それまでの自分は、ずっと自分のいる場所を否定し続け、自分自身をも否定し続けていたのかもしれない。年の離れた、「真面目な」父親のことは嫌いだったし、生まれ育った横浜の木造の小さな古い家も嫌いだったし、そういうものを含む日本のことには、何の興味も持てませんでした。しかしニューヨークで、この見方、この価値観が反転しました。ニューヨークには、世界中からいろいろな国籍、いろいろなタイプ、いろいろなテイストの人間が集まってきています。2枚の畳の上で、彼らと会話しているうちに、自分は何者かということに気が付きました。自分が何の上に立っていて、何を頼りにこれから生きていけばいいかが見えてきました。その意味で^⑦2枚の畳には深く感謝しています。

ここからは後日談になりますが、ニューヨークのアパートを引き払う時、照明デザイン界の「巨匠」のエディソン・プライスさんが、2枚の畳を引き取ってくれました。エディソンは舞台の照明デザイナーからスタートし、照明デザイン界の神様と言われるようになった人で、現代のわれわれが使っている、光源が直接見えず、まぶしくならない工夫がしてあるグレアレスと呼ばれる照明器具は、すべて、エディソンのアイデアがもとになっています。彼がいなかったら、20世紀建築は、あのように美しく輝かなかつただろうとも言われています。建築界の歴史を作った神様達——ミース・ファン・デル・ローエ、ルイス・カーン——から信頼されて、数々の名作を美しく照らし上げてきた照明の世界の神様です。僕は幸いなことに、彼と何回か天ぷらを食べ、建築界の神様達とのバトルを、彼はおもしろおかしく語ってくれました。神様もまた人間だということがわかる笑えるエピソードばかりでした。ルイス・カーンからは、「そんなにやりたいのなら、オレを殺してから、オマエのアイデアを実現しろ」と啖呵を切られたそうです。

⑧ そのエディソンが、アパートの2枚の畳のことを気に入って、引き取ってくれたのです。c 彼が、僕が置いてきたその畳の上で息を引き取ったという話も聞きました。特別な体験をした、2枚の畳でした。

(隈 研吾「建築家になりたい君へ」 河出書房新社)

〈注〉モダニズム……芸術などの分野で、それまでの伝統に対して、現代の流行や感覚に合わせて表現しようとする傾向のこと。

ポストモダニズム……モダニズムの次にはやった傾向のこと。

問一 文中の空欄 a に入る最も適当な語を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば イ ところで ウ もし エ しかし オ さらに

問二 ——線部①「日本風の内装のレストランはいくらでもあったので、簡単に畳は手にはいるだろうと考えていました」とありますが、筆者が「簡単に畳は手にはいるだろう」と考えたのはなぜですか、説明しなさい。

問三——線部②「2枚買うというのは、今思えばいい決断だった」とありますが、筆者は、畳を部屋に敷き詰めるのではなく「2枚」置くことが、どうして「いい決断」だったと考えているのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 畳を二枚敷くだけで充分に緊張感のある極限の茶空間ができあがり、無駄な出費をしなくてすんだから。

イ 畳二枚にすることで、千利休作の茶室である国宝待庵とそっくりの空間を作り上げることができたから。

ウ 二枚の畳を敷いただけで、殺風景だったニュー YORK の部屋の雰囲気を全く違うものに変えることができたから。

エ 部屋全体を和室にするのではなく、部屋の中に茶室のような畳二枚分の極限の空間を作り上げることができたから。

オ 畳を二枚敷くことで、一畳半という微妙な茶室空間よりもバランスの良い極限の空間を形作ることができたから。

問四——線部③「僕は畳を敷いたわけです」とありますが、筆者は、「畳を敷いた」ことでどのような効果をもたらすことができたと考えていますか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 畳を敷いた部屋に相手を招くことで、相手の言葉で充分に説明できていない部分を補うことが出来たということ。

イ 「茶」という日本文化を示すことで、日本文化のすばらしさの一端を相手に理解させることが出来たということ。

ウ 着物を着てみせることよりずっと効果的に、「茶」という日本の文化を相手に深く理解させることが出来たということ。

エ 敷かれた畳に対する相手の反応を見ることで、相手の文化を理解することが出来るようになったということ。

オ 部屋に畳を敷くことで、相手に岡倉天心の『茶の本』を意識させ、日本文化を理解させることになったということ。

問五——線部④「そのような眼」とは、どのような見方のことですか。「くである」と見る見方」に続く適当な部分を本文中から抜き出して答えなさい。

問六 ——線部⑤「当時の建築の世界」とありますが、「当時の建築の世界」の状況とはどのようなものですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア あまりに広がったモダニズム建築は飽きられてしまい、ポストモダニズム建築はモダニズム建築を否定するあまり欧米建築の伝統に戻るしかなく、復古主義に進むしかなくなっている状況。

イ 市民生活が工業を中心に発展するようになり、その象徴であるモダニズム建築が盛んにもてはやされたが、それらの見た目は似たり寄ったりとなり、どの建築も代わり映えしなくなっている状況。

ウ モダニズム建築が限界を迎え、その欠点を正すものとして登場したポストモダニズム建築の広がり陰に、欧米の建築家の日本の伝統建築からの影響が見られ始めている状況。

エ モダニズム建築の衰退の後に現れたポストモダニズム建築は、商業主義にとらわれ、利益を追求するばかりで魅力に乏しく、全体としては先の見えない状況。

オ モダニズム建築が広まりすぎて限界を迎える一方で、その批判としてあらわれたポストモダニズム建築にも新しい魅力が感じられず、新たな建築の方向性を見失っている状況。

問七 ——線部⑥「そのことに気付き」とありますが、筆者は何に気付いたというのですか。「くということ」に続く適当な部分を本文中から六十字以内で抜き出し、初めと終わりの四字をそれぞれ答えなさい。

問八 ——線部⑦「2枚の畳には深く感謝しています」とありますが、筆者はどのようなことに感謝していますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア ニューヨークで二枚の畳の上でしてきた様々な人々との会話を通して、自分は日本人であり、日本文化をより所とし、日本の伝統文化や建築を頼りにして、建築家としての人生を歩んで行けば良いのだということが見えてきたこと。

イ ニューヨークで二枚の畳の上でしてきた様々な人々との会話を通して、自分のいる場所や自分自身を否定し続けていた価値観が反転し、欧米建築には価値が無く、日本の伝統建築にこそ価値があると気付かされたこと。

ウ ニューヨークで二枚の畳の上でしてきた様々な人々との会話を通して、日本にいた頃ころは全く関心が持てなかった日本の伝統建築の中に、行き詰まった欧米建築界の目指す新しい方向性のヒントがあると分かったこと。

エ ニューヨークで二枚の畳の上でしてきた様々な人々との会話を通して、西欧の文化と、これまで意識してこなかった日本の文化との本質的な違いを知ること、欧米建築の本質と成り立ちを理解できるようになったこと。

オ ニューヨークで二枚の畳の上でしてきた様々な人々との会話を通して、ヨーロッパを席卷したモダニズム建築のルーツは日本の伝統建築にあると知り、日本人として自信を持って日本の伝統建築を継承していくことができると確信できたこと。

問九 ——線部⑧「そのエディソンが、アパートの2枚の畳のことを気に入って、引き取ってくれた」とありますが、このエピソードが加えられているのは、筆者のどのような思いの表れだと考えられますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 自分がニューヨークに持ち込んだ畳が、建築界の神様達と照明デザイン界の神様とが真剣にぶつかりあうきっかけを作り、彼らから人間らしさを引き出すという大きな役割を果たしたのだという思い。

イ 自分がニューヨークに持ち込んだ畳の上でエディソンが息を引き取ったという事実が、彼がどれほど日本文化を大切にしていたか、そして日本文化が建築界にどれ程影響を与えたかを物語っているのだという思い。

ウ 新しいことに挑戦する精神を持ったエディソンが自分の畳を評価し、気に入ってくれたことから、自分がニューヨークに持ち込んだ畳が単なる自己満足に終わらない、価値のあるものであったのだという思い。

エ 自分がニューヨークに持ち込んだ畳が、エディソンの空間の意識を変え、まぶしくならない照明のアイデアを生み出すという、建築界の歴史における大きな価値の変革に繋がったのだという思い。

オ 自分がニューヨークに持ち込んだ畳こそが、岡倉天心の言葉にある「着物」以上に日本文化を外国人に理解させるにふさわしいものであり、エディソンが気に入ったことがその価値を物語っているのだという思い。

問題二

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「お父さんが子どものときなんだけどね、遠足の日の朝に雨の音が聞こえてきて、遠足中止かあつてがっかりして起きたら、外は晴れてたことがあつたんだ」

「あ、それ、おれもあつた。変なのと思つて台所行つたら、ばあちゃんがあげものしてた」

油が **A** 音は、雨粒がアスファルトにあたつてはむむときの音に似ている。その日のお弁当に入っていた、冷めてしつとりしたからあげは、もちろんすぐおいしかった。

「お弁当つていいよね。お父さんはおばあちゃんのだし巻き卵がいつも楽しみだったよ」

だし巻き卵？ と聞き返すよりも先に、お父さんがたずねる。

「天くん、料理は好き？ 楽しい？」

①「まあまあ」

自分がやらなきゃ、つて気持ちがおれにはある。純粋に料理そのものが好きで、楽しんでる子や、将来コックになりたくて料理が続いている子と、おれはちがうだろうなと思う。

「でも、*がみババとの料理修業は、習い事してるみたいで、新鮮な感じはする。がみババはうるさいけど、料理するときの手の動きとか、見ると気持ちいい」

「そっか」

「あと、『なんで？』つて聞いたことにすぐ答えが返ってくるのも、まあまあおもしろい」

お父さんはうんうんとうなずくと、なぜか、とてもうれしそうな顔をした。

「あ、音が変わつた。そろそろいいかも」

パチパチが、ピチピチになった。最初は聞き分けられなくてこがしたけど、今日はセーフ。肉の周りから出ていた泡も少なくなつた。菜箸で肉をつまむと、衣のかりかりした感触が指先に伝わってきて、直接触れなくてもちゃんとわかるのがふしぎだ。

こんがりきつね色のからあげたちへ、お父さんが「おお、美しいー」と拍手を送る。残りの鶏肉もすべてあげて、出来ばえは成功と失敗が半々ぐらいだった。

「上出来、上出来。無事完了だね」

「まだ片づけが終わってない。この油、だいたい使ったからもう捨てるよ」

空いた牛乳パックに新聞紙をつめたものを準備する。油が冷めたら、この中に流しこんで捨てるのだ。がみババが「出たゴミの始末まできっちりするのが、料理の基本だよ」と、この方法を教えてくれた。

コンロや壁にも油が飛び散っている。ちゃんときれいにしてやらなくちゃ。

おれが台拭きをせつせと動かしていると、お父さんは流しに立った。洗い終えた調理器具をふきんで拭いて、それぞれしまっていく。もとの場所とはちがうところに。

ああもう、これだ。② これが、いちばん困るんだ。

「お父さんがうってば。使ったらちゃんともとに戻してよ」

おれはお父さんがフックにかけたフライ返しと計量カップを、ばあちゃんが使っていたとおりにかけ直した。何度注意しても、お父さんは「ごめんごめん」と言うばかりだ。

「あ、そうだ、重箱もちゃんと探しておかないとね。さあて、どこかな」

「棚の上のほう。扉に『おべんとうばいれ』ってシール貼ってある」
するとお父さんは吊り戸棚をごそごそ探り、中のものを出し始めた。

「お、あつたあつた」

三段重ねの古くて黒い重箱の、ふたのうさぎ模様を見るだけで、おいしい記憶があふれてくる。お父さんはおれに渡そうとして、ぼろりと落とした。

「あっ！」

がこん、と音がして、重箱が床にぶつかる。急いで拾い上げると、ふたの角が少し欠けて、下の木地が見えていた。「もーっ、何やってんだよ。ちよっと欠けちゃったじゃん」

「ごめんごめん。でも、そのくらいならたいしたことないよ、ちゃんと使える」

③ たいしたことない、だつて？

お父さんが柵から出したものをいいかげんにしまう。ひゅつと、おれののどが鳴った。

「あんまり変えないでよつ！」

わん、と声が台所に反響した。お父さんがびつくりしたように動きを止める。

「物の位置とか、がちやがちやにしないでよ。何度も言ってるだろ。使ったらもとの位置に戻さないと、変わっちゃうんだ。そしたら、わかんなくなっちゃうんだよ」

消えちゃうんだ。

ばあちゃんの気配や、手の動き。ここにたしかにいた、ばあちゃんの名残が。

「お父さんはたいしたことないって思ってるのかもしれないけど、おれはいやなんだよ」

…… 中略 ……

「あ、天くんおはよう」

「……おはよう」

運動会当日の朝、おれが五時に起きて台所に行くと、お父さんはすでに動き回っていた。

キッチンテーブルの上には、朝炊けるようにセットしておいた五合分のごはんが、ラップをしいたお盆の上に広げている。握りやすいように冷ましておいてくれたんだ。昨夜のうちに作っておいたきゅうりの浅漬けはタッパーに移してあるし、二リットル入る大きな水筒もすでに中身が入っている。いつたい、何時から準備していたんだろう。

「天くんまで予定より早起きさせちゃって、悪いね」

「別に。予定外のこと起きちゃったんだからしょうがないよ」

お父さんは今日、急遽ピンチヒッターとして、午前中だけ仕事に行くことになった。街中のショッピングセンターで、会社の新商品の実演販売だ。家族リレーは午後の部だから問題ないけど、お昼をおれたちといっしょに食べられるかが微妙なところらしい。

「仕事の前に、テント張りも行かなきゃいけないんですよ。急ごうよ」

運動会では、自治会ごとに観戦用のテントを張る。お父さんはその手伝いも頼まれていた。仕事もテントも、きつと断れ

ずにはらへら引き受けちゃったんだ。絶対にそうだ。

「卵焼きはもう焼き終わるから、あとは鶏もも肉をあげて、おにぎりを握れば完成だよ」と、笑うお父さんの目の下は、うつすらと黒い。

おれは髪を後ろできゅつと結わえ直した。

「おれはからあげ係、お父さんはおにぎり係ってことで。そっちでいすに座ってやって」

「え、起きたばかりなのに大丈夫？ 寝ぼけてやけどしない？」

「いいからいすに座って！ ごはん握って！」

しばらくすると、張り切るあまり早く目覚めた*光が、おにぎり係に加わった。*陽も起きてきたけど、やっぱり台所には入らなくて、入り口で大あくびだけして引き返した。

料理を重箱につめてふろしきで包み、保冷バッグに入れると、お父さんは家を飛び出していった。おれたちも三人で荷物を分け合って持って、学校へ向かう。

さっきのお父さん、④一人で運動会してみたいだったな。

ううん、さっきだけじゃない。ばあちゃんがなくなつてから、お父さんはずっと一人運動会の真っ最中だ。うちはよその家みたいな、お父さん以外にも大人がいる家じゃないから、お父さんは大人の役割を、全部引き受けて走ってる。

*棄権できない一人運動会。

そこでがんばり続けるお父さんは、何を食べたいって思うだろう？

「陽、⑤おれ忘れ物した」

「え？ 何を？」

「先行つてろっ」

保冷バッグを胸に抱えて、おれは今来た道を逆走した。

作り方はわからない。でもきつと、甘い卵焼きとほぼ同じのはずだ。
だし巻き卵。

ばあちゃんが作ってくれた、お父さんの好きなお弁当のおかず。

きちんともとの位置に戻してあったポウルに卵を三つ割り入れたところで、インターホンが鳴った。だれだよこのクソいそがしいときに。無視していると、鬼のようにノックされる。

まさか、とドアを開けると、がみババが立っていた。

「ああ、やっと出たね。ほれ、約束のブツだよ」

と、手にぶら下げている紙袋を突き出す。

「つたく、何をちんたらやってんだい。これを渡したくて店の前で待っててやったのに、弟に聞いたら家に帰ったって」

「あーっ、あのー！」

がみがみを聞いている時間はないんだ。

「甘くないだし巻き卵作るから、教えて！」

がみババはうちの台所に入ると、だまってぐるりと見回した。ここかい、とつぶやいて、しゃがんで床をなでる。

「さて、時間もないことだし、とつとと始めるよ。だし汁の作り置きはあるね？」

「ある」

卵液にだし汁としょうゆを加え、ザルでこして、焼く。材料が少しちがうだけで、作る手順は同じだ。ただ、だし汁が加わったぶん、卵液がとてもゆるくて頼りない。

「これ、本当に固まる？」

「固まるよ。でも巻きづらくはなるから、菜箸じゃなくてフライ返しを使うといい」

熱したフライパンに卵液を注ぐと、おれは慎重にフライ返しを動かした。

くるり、くるり、くるり。

再び卵液を注いで、手首を返すように、くるり、くるりくるり。

だし巻き卵はしょうゆが入ったせいか、いつもの卵焼きより濃い色に焼き上がった。がみババは切り分けたくちの一切れをつまむと、焼き色や断面をじっと見てから口に入れた。

「うん。まあまあだ」

もつとうまくなりたいな。

料理。

おれたちの輪の盛り上がりには、そばを通った人たちが足を止める。光と陽はそのたびにからあげの試食をすすめる。中には「これ、天くんが作ったの？」と感心して、写真を撮りたがる人もいた。おれはおなが B なるのを感じながら、下のほうでピースした。

「うわあ、すごい！ なんだか宴会みたいだね」

すっとんきような声にふり向くと、スーツ姿のお父さんが紙袋を片手に立っていた。ここまで走ってきたのか、髪はぼさぼさで、息も切れている。

「お父さん、早かったね。仕事はもういいの？」

「うん、大丈夫だよ。本来の担当の人が、交代時間より早めに来てくれてね。お礼までくれたんだ。ちょうどいいからみんなで食べよう」

紙袋から現れたマスカット二パックを陽と光がすばやく受け取り、水道へ洗いに走る。お父さんはおれのとなりに座ると、麦茶を紙コップで続けて三杯も飲んだ。紙皿に取ったからあげは、一口かじっただけでなかなか食べ進まない。タレにも気づいてなさそうだ。

「お父さん、これ」

みんなで食べるお弁当とは別にしておいたアルミホイルの包みを、こっそり渡す。お父さんはふしぎそうにアルミホイルを開くと、「これは？」と目を丸くした。

「だし巻き卵。陽と光に食われないようにかくしてたんだ。それだったら、食べる？」

お父さんの視線が、おれとだし巻き卵を行ったり来たりする。「ああ、そうか」とつぶやくと、何度もうなずいた。「おばあちゃんのお弁当の話を覚えて、作ってくれたんだね。ありがとう」

壊れやすいものを扱うようにだし巻き卵を一切れつまみ、口に入れる。

「うん、すごくおいしい。だしがじゅわっと出てくる」

「でも、おばあちゃんには負けるでしょ？」

「おばあちゃんにはおばあちゃんの味。天くんには天くんの味があるんだよ」
お父さんは目を細めておれを見た。

「天くんが作ってくれるものはいつもおいしいよ。エネルギーに満ちてて、お父さんがお父さんがんばる力になってくれるんだ」

「そうなの？」

「そうだよ。それに、気づいてるかい？ 天くんが台所に立つようになって、陽くんも光ちゃんも表情が明るくなった。怒って、笑って、ごはんのときもよくしゃべるようになったよ」

「どうりで、光とのバトルが増えるわけだ。」

「でも、天くんにまかせてばかりじゃいけないね。お父さんも、もつと料理の練習するよ」

「お父さんだけじゃなくて、みんなでちよつとずつ練習していけばいいよ」

おれは自分の胸を手のひらで叩いてみせた。

「台所の主もちゃんといえるから、なんとかなるよ」

⑧ 運動会は、一人より、全員参加型がいいよ。

お父さんは顔をくしゃつとして、次々にだし巻き卵をほおぼる。その様子を見ていたら急激におなかが減って、おれはおにぎりにかぶりついた。続いてタレをかけたからあげも、甘い卵焼きも。ふだんよく食べているものでも、空の下で食べるという味が違った。食べ物だけじゃなくて、その場の空気もおれたちはいっしょに食べているのかもしれない。

持ってきたお弁当をきれいに食べつくしたところで、陽が言った。

「ところで二人とも、ばくばく食べちゃってたけど、大丈夫？」

「大丈夫って、何が？」

陽はおれとお父さんにプログラムを見せた。

「昼休憩終わって二番目なんだよ？ 家族リレー」

〈注〉 ＊がみババ……天に料理を教えてください、近所に住む口うるさいおばあさん。

＊光……天の妹。

＊陽……天の弟。

＊棄権……出場や投票などの権利を捨てて使わないこと。

問一 空欄A・Bに入る最も適当な語を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A ア はえる イ はげる ウ はける エ はしる オ はてる
- B ア おこがましく イ いらだたく ウ うつとうしく エ こそばゆく オ ぎこちなく

問二 ——線部①「まあまあ」とありますが、お父さんの「料理は好き？ 楽しい？」という質問に対して天がいまいいな答え方をするのはなぜですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

A 純粹に料理が好きの子と比べると、自分はまだ料理が好きだと断言できるほどの自信がないから。

イ 仕方がないから料理をしているだけで、そもそも料理をすること自体があまり好きではないから。

ウ 料理は好きだが、自分がやらなければいけないという使命感の方が強くて十分楽しんでいないから。

エ 料理の腕がまだまだ未熟なのに、料理が好きだと宣言してしまうのは恥ずかしい気持ちがあったから。

オ 料理をしなければいけないという重圧が強く、料理を楽しむほどの余裕など全く持っていないから。

問三 ——線部②「これが、いちばん困るんだ」とありますが、「これ」とはどんなことですか。答えなさい。

問四 ——線部③「たいしたことない、だつて？」とありますが、天がこのように思ったのはどうしてですか。最も適当なものをお次のア～オから選び、記号で答えなさい。

A いろんなことをたいしたことないと感じる父親に対して、反発したい気持ちがあったから。

イ 台所にあるいろいろな物をいかげんに扱う父親の無神経ぶりにいらいらしていたから。

ウ ふたが欠けてしまったことで、その重箱はきちんと使えるものではなくてしまったのが悲しいから。

エ ふたにうさぎ模様のある、お気に入りの重箱が欠けてしまったことがショックだったから。

オ 台所にあつたおばあちゃんの気配や名残が消えていってしまうように感じられて許せなかったから。

問五 ——線部④「一人で運動会してるみたい」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア おとうさんが、おばあちゃんを失って落ち込む家族を応援し、一人で盛り上げようとしているということ。

イ おとうさんが、父の役割だけでなく、母や祖母の役割も全部やって、がんばり続けているということ。

ウ おとうさんが、家族の中心としての意識を強く持って先頭を走り、みんなをひっぱっているということ。

エ おとうさんが、運動会当日の朝、だれよりも早く起きて、一人でお弁当の準備をしていたということ。

オ おとうさんが、たのまれる仕事を次々に引き受けて、休む間もなく動き回っているということ。

問六 ——線部⑤「おれ忘れ物した」とありますが、天はどうしてその「忘れ物」を持っていきたかったのですか。説明しなさい。

問七 ——線部⑥「そういうのやだなんて、受け取りたくないなんて思うときもあるし」とありますが、天がいやだ、受け取りたくないと思うのはなぜですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 周りの優しさや励ましによって、かえって自分たちの家族は欠けてしまっているのだと思ひ知らされるから。

イ 家族が欠けてしまったことで、周囲の人たちに気をつかわせてしまうことが、自分としては心苦しいから。

ウ 周囲の人たちから優しいなぐさめや励ましの言葉をかけられることが気味悪く感じられるから。

エ すてにおばあちゃんの死から立ち直って前向きになっているのに、周囲から同情の目を向けられるのがいやだから。

オ 周りからの親切や励ましは表面上のもので、その多くは思ってもいないことを言っていると感じられるから。

問八 ——線部⑦「おれのもやもやをすばりと真つ二つにする」とありますが、天のもやもやした気持ちですっきりしたのはどうしてですか。答えなさい。

問九 — 線部⑧「運動会は、一人より、全員参加型がいいよ」とありますが、これはどのようなことを表していますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア おばあちゃんがいて家族がそろっていた時を思いだし、やはり以前の方が良かったなと思うということ。
- イ 運動会は個人種目も大事ではあるが、団体競技の方がみんなが盛り上がりやすいということ。
- ウ 欠けてしまった家族がいるけれども、今もいっしょにいるつもりで家族で協力していくことが大切だということ。
- エ 一人でがんばるよりも、家族みんなでいっしょに家事をした方がきつと楽しく暮らせるようになるということ。
- オ 家の中の役割を誰か一人が頑張^{がん}って果たすのではなく、みんなで協力し合^あっていくのが家族のあり方だということ。

問題三

次の①～⑩の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

- ① 七夕のタンザクに願ねがい事を書いた。
- ② スタジアムが大カンシユウで埋うめ尽つくされた。
- ③ マラソンで世界新記録をジュリツする。
- ④ コウズを考かんえながら写真しやうしんを撮とる。
- ⑤ 昨夜けふから今朝にかけてのボウフウで、庭にわの木が倒たおれた。
- ⑥ 彼かれの日々たゆまぬ努力は賞しょう賛さんに値あする。
- ⑦ 過去かこを省しやうみて心こころを入れかえる。
- ⑧ 激げきしかった雨あめが小降こふりりになつてきた。
- ⑨ 相手の強つよさを目の当あたりにして気後きごれする。
- ⑩ 海辺うみべで足あしに打ち寄よせた海水うみづが生暖なまかった。

問題四

今、日本では、「ファミコン言葉」と言われる、ファミリレストランやコンビニエンスストア等から広まったとされる、これまでの日本語から考えると不自然な表現が使われることがあります。

以下に挙げる①～⑤の「ファミコン言葉」が使われた文の——線部分を、()内の状況に合わせて、より自然な表現に直しなさい。

- ① 「八〇〇円ちょうど、お預かりします。」
(レジで、八〇〇円の商品の代金を客から受け取ろうとしてる店員の言葉。)
- ② 「こちら本日の日替わりランチセットになります。」
(ファミリレストランで、注文された日替わりセットを運んできた店員の言葉。)
- ③ 「ご注文は以上でよろしかったでしょうか？」
(ファミリレストランで、注文されたすべての料理をテーブルに置いた店員の言葉。)
- ④ 「店内でお召し上がりですか？」
(ファストフード店のレジで、注文しようとする客への店員の言葉。)
- ⑤ 「こちらでは、キャッシュレス決済をご利用できます。」
(レジで客に支払いの説明をする店員の言葉。)

問題五

次の①～⑦の文章の空欄にあてはまる語を、意味を参考にして後のア～シの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 競合する他社の製品の信頼性が薄れたことで、当社の製品に対する [] 的な価値が上がった。
意味…… 相手との関係で互いを考えること。

② 高速道路での交通事故が発生する要因をさまざまな角度から [] する。
意味…… 複雑なことを細かく分類して調べること。

③ これだけ練習したのだから、この試合に勝つことは [] だ。
意味…… かならずそうなるときまっていること。

④ 仕事の成果は、数字を用いて [] 的に評価されなければならない。
意味…… 特定の立場にとらわれず、物事を見たり考えたりするさま。

⑤ 科学は、いついかなる時でも成りたつ、 [] 的な法則を求めて発展してきた。
意味…… すべてのことにあてはまること。

⑥ 父は元来 [] 的な人間なので、新しいことには挑戦したがらない。
意味…… 古くからの習慣、伝統、考え方を重んじて守っていかうとすること。

⑦ この参考書には、英語の苦手な生徒のための勉強方法が [] 的に書かれている。
意味…… 実際に形や内容を備え、はつきり知ることができるさま。

⑧ 消費者の□□に依えて生産量を増やした結果、価格の下落が起こってしまった。
意味……必要としてもとめること。

⑨ 日本企業の問題点は、ものづくりはできるが、新しい価値を□□できないところだ。
意味……それまでなかったものを初めて作り出すこと。

⑩ 人間が他の動物と異なる点の一つは、□□を持っているところである。
意味……欲望や感情に流されずに、筋道を立てて物事を考え判断する能力。

ア	相対	イ	創造	ウ	理性	エ	保守	オ	必然	カ	需要
キ	道具	ク	分析	ケ	客観	コ	一方	サ	普遍	シ	具体

(以下余白)

